

2016年度外国人留学生入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験(芸術学科は小論文)	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験 作品利用
日本画	与えられたモチーフに対するデッサン力、表現力(構成・描写・色彩感覚)を求めた。	実技作品を踏まえ、制作意図を語らせるとともに、提出作品、小論文、多摩美術大学への志望理由を参考に、総合的に判断した。	●
油 画	ブリーツコートとTシャツを着た女性モデルをモチーフとして出題した。女性モデルがパイプ椅子に座っている状態を、各自がどのように解釈しイメージをひろげ表現できるのか。形態や空間、色彩感覚、独自性、創造性など表現の基礎を総合的に見ることがねらいである。	制作意欲、表現への取り組み方、留学の必然性、多摩美術大学油画科を選んだ理由、日本語によるコミュニケーション能力などについて総合的に判断した。	●
版 画	版画制作を学ぶ過程で必要とされる基本的な観察力、デッサン力、造形力を見るために本年度は光沢があり映り込みのある銀紙を自由に造形した後、自由にデッサンを試みさせた。	版画に対する知識と意欲及び現在までの絵画経験	●
彫 刻	テーマを自画像と「記憶」とすることにより、一般的な基礎的なデッサン力だけではなく、想像力に富み柔軟で個性的な発想力、表現する意欲を試しました。受験生個々の現時点でのデッサン力よりもむしろ、様々な環境で培われた経験値や潜在的表現力を図るべく自由度の高い出題内容とし、入学後のカリキュラムの於いて意欲的で新鮮な造形制作の可能性の有無を図りました。	基礎的な言語能力やコミュニケーション能力を図るとともに、本学を受験する明確な動機があるかどうか、また彫刻領域に対する研究意欲や将来的な展望をふまえた受験動機を確認する。	—
工 芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。	なぜ本学の工芸学科を選んだのか。そして何を学びたいのか。将来の展望などについて熱意と説得力のある答えを望む。実技試験を終った感想を話してもらうことで、本人の制作についての考え方や取り組み方を再確認したい。面接の受け答えと小論文において、本学での学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。	●
グラフィック デザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか	面接 ・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の基礎的な用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
プロダクト デザイン	・理解力=問題の把握、理解が適切か ・発想力=アイデアが優れているか ・独創性=他にないアイデアか ・実現力=アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力=アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイル デザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的な観察力と描写力及び色彩表現力を問うことをねらいとして、テンゲン菜とポリプロピレン製メジャーカップをモチーフにして出題した。設問を正しく理解しているかどうか、正確な観察と独創的且つ調和的な構成が美しいものにできているかを採点のポイントとした。	ひとつは、授業についていくことが出来る十分な日本語力と造形力を有しているかどうかを問うために、もうひとつは、テキスタイルデザインを学ぶための意志や志願の動機を明確に説明できるかどうかを問うことをねらいとして面接試験を実施した。	×
環境 デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的な造形力、および基礎的なデッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	本学科の授業を理解できるだけの日本語会話能力があるか。日本で、また多摩美術大学で学びたい理由がはっきりしているか、本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。	●
情報デザイン メディア芸術コース	ただポーズを取っている手のかたちやテクスチャーの描写だけでなく、描くという行為を行っている手いかに描くか。さらに、具体的な数値を与えられた幾何形状との相対的なサイズ関係、自然物と人工物の対比、それらが与えられた画面の中で美しくレイアウトされているかが、採点のポイントである。	面接試験のねらいは以下の能力をみることにある。採点のポイントはこれらを総合して判断する。 ・面接時の態度、言葉遣いをふくめたコミュニケーション力。 ・提出作品の内容。 ・提出作品の内容を限られた時間内にうまく伝えられるプレゼンテーション力。	●
情報デザイン 情報デザインコース	手とモチーフ(A5サイズコピー用紙)の観察デッサンを通じて下記の評価を行なった。 ・基礎的な手の描画力 ・紙の質感などの表現力 ・手と紙による構成功力 ・紙の加工に対する工夫 以上を通じて、観察して描くことに取り組んでもらうことが出題のねらいである。	面接のポイント ・日本語でのプレゼンテーション力 ・作品解説にとどまらない、制作過程や制作意図を含めたプレゼンになっているか ・入学後のヴィジョンを持っているか ・情報デザインへの理解度	●
芸 術	実技(小論文) 日本語の習熟度だけでなく、思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	面接 外国人留学生の存在は他の学生にとっても大きな刺激となります。面接試験では、直接本人と会って、日本語能力が適切であるか、芸術に関する最低限の基礎知識をもっているか、などを判定します。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握・理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視 点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか。	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	—	—	—
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース	鉛筆デッサンは、4種類の質感の異なるモチーフを与えます。それらを想定で組み上げることによって空間構成功力をモチーフの異なる質感を描き分ける観察力と表現力を、光をとらえて陰影を劇的に描写できる感性があるかを探ります。舞台美術はプロセミアムを、映像美術はフレーム画面角を意識して美術設計を行います。日頃からそのような感覚で空間と対象を見る目を持つことが重要です。また、常に光を意識し独創的でドラマチックな発想をすることが必要です。想定デッサンとなっているのは、モチーフを自由に構成し、情景をも創造してほしいということです。	日本語会話能力 学科の特色を理解しているか 協調性があるか 授業への熱意と適応力があるか 作品の説明が的確であるか	×

全学科共通小論文

- 1) 題:「日本美術の魅力」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。
- 2) 日本美術の何に、どこに魅力を感じ留学を決意したのか、を述べてもらいたい。
- 3) 正しい日本語によって書かれているか。意味内容が明確であり、かつ留学に対して強い意欲が感じられるか。